

すいか隊レポ

上大門ふれあいサロンのみなさまと

平成26年6月4日に上大門公民館にて「さあさ ご一緒に はじめましょう」のすいか隊出前講座をさせていただきました。赤ちゃんからご高齢の方まで参加していただき、和やかな2時間でした。初めて参加された男の方も、だんだん笑顔になられて嬉しかったです。講座の内容は顔の体操、歌いながら手足を動かしての脳トレ、幸せならジャンケンしよう!、輪になって皆さんで遊んだり、懐かしい歌を熱唱したり、楽しいひとときを過ごさせていただきました。参加者の皆さんはとてもおしゃれでお元気で、ご年齢を聞いてびっくり!の方も。体も脳もお若いなあと感じました。出前講座では、いろいろな地域に出前に伺いますが、どこの地域でも男女共同参画を活発に推進しておられ、多くの刺激をいただいています。



すてきな いきかた かんがえようプロジェクト♡ 開催

平成26年9月6日(土)に「すてきないきかたかんがえようプロジェクト2014～PART1～」を開催しました。『男女共同参画の視点から、女性の視点から見た地域活動・家族を語ろう!交流会』と題して、市内の学区女性団体や男女共同参画に関心のある団体、個人の方の活動報告を、お茶と焼き菓子をいただきながらの交流会を開催しました。PART2は来年1月開催予定ですので、是非ご参加ください。



図書館交流プラザLibraの 男女共同参画講座

平成26年度後期の予定

男女共同参画セミナー

- ★ 10月4日(土)
「育児参画で男を磨こう!」
- ★ 11月8日(土)
「地域を守る防災から復興までの道標」
- ★ 11月22日(土)
「なぜ夫は、愛する妻を殴るのか?
～被害者支援にとつての加害者理解～」
- ★ 11月29日(土)
「みんながってみんないい
～絵本から見る男女共同参画～」

- 11月 男女共同参画から絆づくり
- 2月 新米コックおとこの料理教室(全4回)
コミュニケーション上達講座(全2回)
- 3月 女性のための健康講座
法律講座

詳細は市政だよりに随時掲載します。

私たちと一緒に 活動しませんか?

すいか隊は岡崎市初の男女共同参画を推進する市民活動団体です。市の情報誌『Kiratto』の企画・編集をはじめ、地域で活動したいと考えている学区・町内グループの活動をバックアップしています。町内会や地区の各種団体と一緒に、「楽しくてためになる講座」も実施しています。

まちづくりや地域社会活動に興味がある方なら、どなたでも大歓迎!すいか隊事務局(下記文化活動推進課 男女共同参画班)までお問い合わせください。



さんちゃん



かつくん

家事場のパパヂカラ

Kiratto

No.13

2014年9月発行

今号のKirattoさん

岡崎市男女共同参画推進サポーター 「すいか隊」の飛鷹正範(39)さん

子育て支援・父親支援や
男女共同参画推進に取り組む
3児の子育てパパです。



それに対して、私の妻は結婚する前から仕事を持っていて、妻と私で家事や料理などを分担することに特に疑問を感じませんでした。また、妻は仕事と育児の両立で、ストレスがあることを感じていたので、そのサポートに入ることは、私にしかできない当然の責務であり、役割であると思ってきました。

★ 今後の抱負をお聞かせください。

★ 全国規模で父親支援をしている「NPO法人ファザーリングジャパン」のメンバーとして活動している中で、夫や父親としてのあり方が社会に与える影響の大きさを感じています。「笑っている父親」を一人でも多く増やしていきたいと思っています。そのためにもっと活動の幅を広げていきたいと思っています。

★ インタビューを終えて…

飛鷹さんに公私に関わるインタビューを行って、私が意外に感じたことは、最初の子どもが生まれたことをきっかけに、男女共同参画の意義に気づかれたことですね。子育ての《待った無し》の大変さを知り、父親である自分の存在の大きさを肌で感じられたのだと思います。それだけ子どもたちを愛しているのだなと…また家族からもたくさんの愛情をもらい、その力がさらに膨らんでいっているのだと思いました。飛鷹さんは、本当に素直で、こんな男性もいるのだと感じ、楽しいインタビューでした。(インタビューア:加藤)

★ Q 男女共同参画の活動を始めたきっかけは何ですか?

★ A 長女が2003年3月に生まれたことがきっかけです。それまで男女共同参画という言葉は知っていても、まるで関心はありませんでした。娘が生まれ、初めて育児の楽しさと、大変さを知り、男女共同参画の意義に気づき、この言葉の意味を噛みしめるようになってきたと思います。2004年には、個人運営の子育て支援プロジェクト「育サポ」(国内最大級の授乳室情報共有サイト)を立ち上げました。

★ Q すいか隊員として「イクメン」や「ワーク・ライフ・バランス」の活動をしてきた飛鷹さんですが、ここに至るまでにはどんなことに関わってきたのですか?

★ A 約5年前に名古屋の「パパサークル」の活動を知り、そこに参加していました。そこで、これまで関わることがなかったいろいろな職種のパパたちと子育て話をし、とても新鮮で面白く思いました。そして三河地区でも同じような仲間を作ろうと思い、2010年5月9日の母の日に「パパと子供たちでママへの感謝を込めて母の日のプレゼントを作ろう」というイベントを開催して、「三河子育てパパネット」を立ち上げました。

★ Q 夫、父親としてどうありたいと考えてきましたか?

★ A 私の父親の仕事は勤務時間が不規則で、息子として関わってもらった時間はあまりありませんでした。母親は専業主婦で、父親とはそういうものだと思ってきました。